

テーマ： 子供が理科の学びのよさを感じられる教材の開発と発信

宇都宮大学教育学部

附属小学校

Tel. 028-621-2291

担 当 鈴木 葉子

者：



■実践内容：

附属小学校では、「科学的に学び、自然事象のおもしろさを実感できる授業」、「子供の科学概念を深める活動」の二点を研究の柱に研究し、以下のことを実践してきた。

- (1) 授業の中で使っていく教材の工夫や単元や授業の展開の中での実践（新しい指導要領の内容に重点をおいて）
 - ・ 第3学年 物と重さ、風やゴムの働きに関する自然事象に目を向け、色々な現象比べながら学習していけるような教材開発、太陽と地面の関係のきまりを見つけやすくする観察方法の工夫
 - ・ 第4学年 空気や水、物の状態変化（水の三態変化を含めて）や電気による現象を力、熱、電気の働きと関係付けながら調べていけるような教材の開発と単元展開の工夫
人の体のつくりと運動について興味を持って追究し、自分なりの見方や考えを持てるような単元展開の工夫
 - ・ 第5学年 電流の働きに条件に目を向けて実験を進めていける教材開発と授業実践、気象現象や流水の働きを継続的に観察したり記録したりできる場設定や活動の工夫
 - ・ 第6学年 水溶液や物の燃焼、電磁石の変化や働きなどをその要因と関係付けながら調べていける教材開発や単元展開の工夫、土地のつくりと変化の様子を自然災害などと関係付けて考える教材開発
人の体のつくりと働き（主な臓器の存在も入れて）興味を持って追究し、自分なりの見方や考えを持てるような単元展開の工夫
- (2) 理科室内や廊下に科学コーナーを設置
 - ・ 理科担当教員の興味や特技を生かした科学コーナーを季節やその時々科学情報を取り上げながら設置、更新していった。
- (3) 県内外の学校への発信
 - ・ 初等教育研究発表会を通して、授業を公開したり教材を紹介したりした。

■実践成果：

子供が理科の学びのよさを感じられる教材の開発と発信をテーマに研究や実践を行ってきた。その中で、成果として次の点が挙げられる。科学的に学び、自然事象のおもしろさを実感できる授業、子供の科学概念を深める活動を工夫することで、子供一人一人が自然事象を科学的に見る力を使い、自然と自分の生活とのかかわりを考えることができるようになってきた。

■実践ポイント：

子供が理科の学びのよさを感じられるように、できるだけ子供一人一人が多くの観察、実験をできるように教材の準備をしたこと。また、教材教具をできるだけ教師が自作するようにして、子供たちが使うことができるようにしたこと。